

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和3年5月6日現在

研究課題名	ウクライナにおける正教会分裂の現状に関する社会学的研究	
申請者	氏名	所属機関・職
	高橋沙奈美	九州大学人間環境学研究院・講師

## 研究成果の概要

本研究課題は、ウクライナにおける複数の正教会による社会貢献活動を公共宗教という概念から再検討した。期間中に、科学研究費（基盤C）を利用した現地調査と、北海道大学付属図書館所蔵の資料を利用して文献調査を行う予定であった。しかしCOVID-19感染防止対策のため、渡航はもちろん、部外者の図書館利用も制限されたため、予定した調査は不可能となった。そのため、2019年9-10月に実施したウクライナ東南部での調査をまとめ、報告する作業を中心に行った。

ウクライナの正教会の最大宗派であるウクライナ正教会モスクワ総主教座（UOC-MP）であり、ロシア正教会の管轄下に置かれている。これに対抗するため、ウクライナにはコンスタンティノープル総主教座に承認された新ウクライナ教会（OCU）が2019年1月に設立された。UOC-MPに対しては、法制上の差別、ウクライナの政府系・ナショナリズム寄りメディアによる攻撃があからさまに行われている。しかし、東南部では、地元で強力な基盤を持つ企業のバックアップを得て、UOC-MPがかなり大規模な社会貢献活動を展開していることが分かった（特にオデッサで顕著）。一方、宗教行政を担当する政府官僚は、UOC-MPに対して敵対であることも少なくなく（ヘルソンやザポリジヤ）、正教会に対する評価に関して地域が一丸となっているわけではない。一方、OCUは東南部での基盤が非常に弱く、社会貢献活動を展開するほどの財政的・人的資本を持たない。このように、東南部において教会分裂が地域の分断をもたらし、しかも教会離れを引き起こしているという全般的な傾向は社会貢献活動においても観察された。一方で社会貢献活動に関わる人びとによって、公共性への参加が強く意識されていることも確認された。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

1. 高橋沙奈美「コロナ・パニックと東方正教会（1）この世の終わりとよみがえったラスプーチン」『ゲンロンβ』52（2020年8月）電子ジャーナル
2. 高橋沙奈美「コロナ・パニックと東方正教会（2）「われわれ」の中にひそむ敵―「ウクライナ正教会」の断罪と救いのゆくえ」『ゲンロンβ』53（2020年9月）電子ジャーナル
3. 高橋沙奈美「ウクライナの排他的公共圏と正教会」西日本宗教学会、2021年3月27日（オンライン）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

該当なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。